


# 読書推進運動


 公益社団法人  
**読書推進運動協議会**  
 〒101-0051  
 東京都千代田区神田神保町1-32  
 出版クラブビル6階  
 TEL 03(5244)5270  
 FAX 03(5244)5271  
 発行人 佐々木 泰  
 編集人 片岡 伸子  
 定価 60円

No.672

★2024「若い人に贈る読書のすすめ」書目一覧(2頁)  
 ★福島県高等学校司書研修会の取り組み(6頁)

会員の購読料は  
会費の中に含まれる



## 「若い人に贈る読書のすすめ」によせて 子どもたちの「読書の質」を 高める学校図書館を目指して

公益社団法人 全国学校図書館協議会  
 常務理事・事務局長

たけむら かずこ  
**竹村和子**

同じ時刻、同じ車両に乗ることが多い通勤・通学の電車。始発に近い駅から乗車すると、比較的空いている。対面の座席に座っている制服を着た、時折見かけるあの生徒は、今日も静かに自分のペースでしおりを進めている。学校図書館か公共図書館で借りたのだろうか、バーコードラベルが貼られ、ブックコートがかけられている。この間見かけたときとは違う本のようだ。その生徒が通学している学校の学校図書館は、どんな蔵書構成になっているのだろうか。読書指導はされているのだろうか。日々の授業では、どんな学びが展開されているのだろうか。気になってしまふ。

今年も「学校読書調査報告」を、当会の機関誌『学校図書』11月号に掲載したので、調査データや分析の詳細は、機関誌をご覧いただきたい。「5月1か月間の平均読書冊数」のデータを前年と比較すると、中学生は4.7冊↓5.5冊。高校生は1.6冊↓1.9冊。中学生の読書冊数が若干増加している。中学生はここ10年間、高校生はここ5年間多少の変動はありながら増加している。今回「不読率」は、前年度と比較すると中学生は18・6%↓13・1%。高校生は51・1%↓43・5%と低下幅が大きかった。特に高校3年生の不読率の低下幅が大きかった。これは文部科学省が高校生の不読率低下のために力を入れ、各教育委員会からの指導等を経た効果が表れてきたのではないかと分析している。

「不読率」の数値はよくマスクメディアなどで取りあげられるが、むしろ今の子どもたちがなにを読んでいるかにもっと着目してほしい。本調査では「今の学年になってから読んだ本の書名」を問うている。全体的な傾向として、短編作品、アニメやドラマなどに関連した本が多く読まれていて、一方で、文豪の作品名は、数タイトルしか見当たらない。現代作家の作品を楽しむことも大切であるし、長く読み継がれている本も読んでほしい。「読書の質」を高めていくことが、子どもたちの読書生活を豊かにしていくことにも繋がる。

「全校一斉読書の時間」が、読書以外の別の活動に代わっているところが増えていると聞く。部活動、塾等々もあり、じっくり読書に取り組む時間が確保できない子どもたちの現状は今に限ったことではないが、忙しい子どもたちだからこそ、読む時間を計画的に確保することが必要である。識字率が高い日本で、教科書が読めない子どもたちが多くいることが話題となったことは、記憶に新しい。今、学校では、まとまった文章を読んで意味がわかる、「読解力」の育成が課題となっている。PISA2009の調査で、読書する生徒の読解力スコアが高い傾向がみられたという報告もあった。読書は、個人の楽しみである。一方で、学校は教育の場である。学校での計画的な読書指導が、読み解く力を培い、生涯、読書を楽しむ人を育てることに繋がる。

# 2024 『若い人に贈る読書のすすめ』実施

公益社団法人 読書推進運動協議会・事業委員会は、2024 『若い人に贈る読書のすすめ』推薦図書24点を選定しました。

今年も例年どおり、道府県読書推進運動協議会に「若い人にぜひ読んでもらいたい本」の推薦を依頼、40の読進協から計88点の書目の推薦をいただきました。

もつとも推薦が多かったのは、辻村深月の『この夏の星を見る』で8つの読進協から、ついで、瀬尾まいこの『私たちの世代は』の5つ、宮島未奈の『成瀬は天下を取りに行く』が4つと、推薦を集めました。今回は、コロナ禍を描いた作品への推薦、ことばによるコミュニケーションや気持ちの整理をテーマにした作品への推薦が目立ちました。

事業委員会の書目選考基準は、



①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

本年度も、この推薦図書リーフレットを20万部製作、道府県の読進協・都道府県立図書館を通じて各公共図書館に、日本出版取次協会の協力で取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、有効に活用していただく予定です。

リーフレットの出来は12月上旬を予定。2023年内の発送は12月22日(金)受付分までです。成人式でご利用予定の方はご注意ください。卒業式、読書グループ、学校での読書指導、地域の文化活動などでのご利用も歓迎です(部数にかぎりがあります)。(希望の方は公益社団法人 読書推進運動協議会事務局までお問い合わせください。

03-5244-5270

e-mail info@dokusyo.or.jp

『若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット掲載書名一覧

著者名	書名	定価	出版社
辻村 深月	この夏の星を見る	二〇九〇	KADOKAWA
瀬尾まいこ	私たちの世代は	一八七〇	文藝春秋
こまつあやこ	雨にシユ克蘭	一五四〇	講談社
宮島 未奈	成瀬は天下を取りに行く	一七〇五	新潮社
西 加奈子	くもをさがす	一五四〇	河出書房新社
東村アキコ	もしもし、アッコちゃん?	一五四〇	光文社
中村 英代	嫌な気持ちになつたら、どうする?	八八〇	筑摩書房
阿部広太郎	あの日、選ばれなかった君へ	一六五〇	ダイヤモンド社
NHK「星にできないいそな夜」制作班	その気持ち、なんて言う?	一〇〇	祥伝社
諸富 祥彦	承認欲求、捨ててみた	一七三八	青春出版社
タカサカモト	東大8年生	一七六〇	徳間書店
岡嶋かな多	夢の叶え方はひとつじゃない	一四三〇	PHP研究所
今井むつみ	言語の本質	一〇五六	中央公論新社
秋田 喜美	あなたの日本語だいじょうぶ?	一六五〇	暮しの手帖社
金田 一秀穂	伝わる言葉。失敗から学んだ言葉たち	一四三〇	集英社
須江 航	ネット情報におぼれない学び方	九九〇	岩波書店
梅澤 貴典	18歳から100歳までの日本の未来を考える17のキーワード	一七六〇	Gakken
樋口 裕一	ことばの白地図を歩く	一五四〇	創元社
奈倉 有里	ウクライナから来た少女ズラータ、16歳の日記	一六五〇	世界文化社
ズラータ・イヴァシコワ	13歳からのサイエンス	九七九	ポプラ社
緑 慎也	短歌のガチャポン	一七六〇	小学館
穂村 弘	NHK理想の本箱	一三二〇	NHK出版
稲田 豊史	ポテトチップスと日本人	一〇四五	朝日新聞出版
チームドラゴン	なぜか結果を出す人が勉強以前にやっていること	一六五〇	東洋経済新報社





# 2023年度・第56回 全国優良読書グループ表彰

## 道府県読進協推薦

公益社団法人 読書推進運動協

議会で、第77回「読書週間」事業として、11月3日(祝)を中心に、各道府県の読書推進運動協議会を通じて、「第56回 全国優良読書グループ(下表)」の表彰を行いました(一部選考中)。

読書グループの結成促進と育成強化は、読書推進運動の根幹をなすものとして、公益社団法人 読書推進運動協議会は結成以来、活動の第一目標とし、道府県各読書推進運動協議会と連携して、その育成・発展に努力を重ねています。

この事業は、各読書推進運動協議会の推薦により、一地域一グループを表彰するもので、原則として5年以上の活動を続けているグループを推薦・表彰の対象としています。

現在、読書グループの活動は、読書会、実演活動、家庭・地域文庫、障がいを持つ方への読書支援、図書館サポートなど、多岐にわたつ

ています。

全国の読書グループに敬意を表し、数ある読書グループを対象にご推薦の労をとられた、各道府県

読書推進運動協議会のみなさまに、深く感謝いたします。

推薦された優良読書グループには、その業績を讃え、公益社団

### 優良読書グループ名

所 在 地	代表者(世話人名)
ブックスタートをサポートする会	藤平 真樹子
奥中山こひつじ文庫	菅生 明美
カンガルー読書会	阿部 千佳子
ブックスカフェ	一條 志津子
絵本読み隊	片倉 逸子
「桑折町読み聞かせ団体「ファミリア文庫」」らみるく	林 王 直美
守谷の図書館を考える会	森本 菊代
朗読ボランティア「ひばりの会」	津田 和夫
太田市立蔵本町図書館「ぼこ・あぼこ」	秋本 厚子
白樺読書会	稲垣 和子
平家物語音読会	岩崎 千恵
読み聞かせの会 ぼけつと	西脇 弥生
文学に親しむ会	油谷 智子
野露読書会	藤井 真人
おはなしの会 ムーミン	平間 恵美子
松本地域子ども文庫・おはなしの会連絡会	山本 美栄子
オレンジ・ママ	佐藤 佳世
すまいるハート	中嶋 孝子
守山市読書連絡協議会	浅田 紀代子

法人 読書推進運動協議会より賞状および副賞(図書カード2万円分)を、各道府県読書推進運動協議会を通じて贈呈いたしました。各グループの活動状況は、1月号以降、本紙上で逐次紹介していきます。

この優良読書グループ表彰は、1968年 第22回「読書週間」から実施しており、本年までの表彰グループ数は1952の数グループとなりま

ります。

なお、副賞の図書カード2万円分のうち1万円分は、例年同様、日本図書普及株式会社の協賛により寄贈されたものです。同社の協力に厚くお礼申しあげます。

### 優良読書グループ名

所 在 地	代表者(世話人名)
絵本サークルきいろいばけつ	藤本 英子
洲本図書館おはなし会ボランティア	樋口 真理子
朗読クラブひかり	下西 恭子
岩美みんわを語る会	片村 俊子
ひだまり	島根 陸子
おっはなし会	矢野 しをり
(選考中)	
朗読ボランティアしゃぼん玉	徳島 逸子
読書ボランティアシュークリーム	香川 根志保子
三島読書グループ連絡協議会	愛媛 啓子
おはなしの泌泉	福岡 水井 キミ
りんりんおはなし会	福岡 高尾 美紀
おはなしもこもこ	佐賀 市川 和枝
くれよんくらぶ	長崎 岡本 由紀
杵築市立図書館 古典文学講座	熊本 栗屋 文世
えんよみ隊	大分 甲斐 真希
枕崎市読み聞かせ	宮崎 久木田 弘子
ボランティアグループ連絡会	鹿児島 屋 良 篤
伊平屋小学校メルヘン隊	沖縄 屋 良 篤

(以上37グループ)



■「絵本ワールドin京葉」

### 大学生が中心となって運営！ ふたつのキャンパスで開催

10月14日(土)、15日(日)の2日間、城西国際大学紀尾井町キャンパス(東京都千代田区平河町)において、「絵本ワールドin京葉2023」(主催Ⅱ同実行委員会、後援Ⅱ子どもの読書推進会議)が開催された。

近隣の麹町保育園の協力により、オープニングセレモニーとして、園児を交えたテープカットが

おこなわれ、なごやかな雰囲気スタート。大学特別価格での絵本の販売、大学生による読み聞かせ、しかけ絵本をてがける作家のやまはたマリーさんの講演会、絵本専



保育園児たちのテープカットで開会

門士による群読お話会、飛び出す絵本を制作するワークショップなど、多くのコンテンツに子どもたちの笑顔があふれた。この「絵本ワールド」は、大学生が中心となって運営しており、販売する絵本の選書に学生がかかわるなど、福祉教育の実践的探求の側面も併せ持っている。

また運動企画として、絵本『PHOTOK 北極風と歩く』の萩田泰水さん(極地冒険家)と、井上奈奈さん(作家)による、第28回日本絵本賞大賞記念トークイベントも10月26日(木)に行われた。

そして、11月11日(土)、12日(日)には、城西国際大学東金キャンパス(千葉県東金市求名)のゆつたりしたスペースに会場を移し「絵本ワールドin京葉2023」の後半が大学祭と同時開催で行われた。

ここでも紀尾井町と同じく大学特別価格による絵本の販売や、大学祭と同時開催という特性を生かし、多くの大学生が企画、運営に携わるさまざまなコンテンツを実施した。

■文科省「子供の読書キャンペーン」きみに贈りたい1冊」

### 中高生を対象に、来年4月まで 著名人のおすすめ本を紹介

文科科学省は、10月27日(金)より子どもの読書活動を推進するため、「子供の学び応援サイト」に特設ページ「子供の読書キャンペーン」きみに贈りたい1冊」を設けて、著名人による子どもたちへのおすすめの本とメッセージや、読書関係団体の取組などを紹介している。

現在、子どもの中でも、特に高校生は、読書離れの傾向がみられている。このキャンペーンでは、部活動や勉強などに日々向きあう中高生などがさまざまな本にふれ、読書に親しめる機会が増えるよう、教育、科学技術・学術、文化、スポーツの各分野で活躍する著名人によるおすすめの本とメッセージを紹介する。

キャンペーンは、読書週間(10月27日～11月9日)から開始し、令和6(2024)年4月23日(子ども読書の日)まで継続予定。著名人のおすすめ本は、10月、12月、2月、4月の4回にわけて更新される(予定)。

特設ページでは、

(1)「著名人のおすすめ本と子供たちへのメッセージ」  
・10月は主にスポーツ、芸能分野から8名が登場(敬称略・50音順)。

①上白石萌音(俳優・歌手)

②金城梨紗子(Team JAPAN シンボルアスリート レスリング 競技)

③古坂大魔王(芸人・プロデューサー)

④高木美帆(Team JAPAN シンボルアスリート スピードスケート 競技)

⑤中江有里(俳優・作家・歌手)

⑥野村萬斎(狂言師)

⑦益子直美(公益財団法人日本スポーツ協会副会長・日本スポーツ少年団本部長)

⑧三宅宏美(国際ウエイトリフティンク連盟理事・ウエイトリフティンク指導者)

(2)その他

・コラム(本年9月～10月に中国・杭州で開催されたアジア大会選手村における本のカフェ&サロンの取組)

・読書関係団体などの関連リンク

(各関係団体が選ぶおすすめの本など)

文科科学省では、関係団体などに対し、●ホームページやSNSに特設ページへのリンクを貼る(文科科学省ホームページへのリンクであることを明記のこと)

●主催イベントなどのタイトルに「子供の読書キャンペーン」きみに贈りたい1冊」の文言を使用する ●ホームページやチラシなどに左記のバナーやQRコードの画像を掲載するなどの協力を要請している(いずれも、申請は不要)。

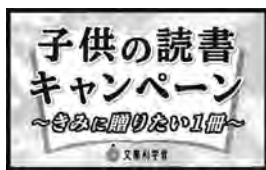
#### 【問い合わせ先】

文科科学省 総合教育政策局 地域学習推進課

e-mail [tosyo@mext.go.jp](mailto:tosyo@mext.go.jp)

文科科学省ホームページ「子供の読書キャンペーン」きみに贈りたい1冊」

[https://www.mext.go.jp/a-menu/ikusei/gakusyushien/campaign\\_2023.html](https://www.mext.go.jp/a-menu/ikusei/gakusyushien/campaign_2023.html)



キャンペーンバナーのデータを希望の方は、文科科学省 地域学習推進課までメールでお問い合わせください



■親地連 全国交流集会

# 4年ぶりの対面開催！ 自然と本からのちと平和を学ぶ

親子読書地域文庫全国連絡会（親地連）は、10月7日（土）、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年センターで、「親子読書地域文庫全国連絡会 第24回 全国交流集会」を開催した（子どもゆめ基金助成活動）。今回のテーマは、「すべての子どもに読書のよろこびを！今こそ守ろう！生命（いのち）と平和」。

開会式で実行委員長の廣瀬由紀さんは、「実行委員会もオンライン形式で行ってきたので、今日、はじめてみんなと会えた。コロナ下ではいろいろな情報に振りまわ

された。あらためて自分の頭で考えることの大切さを知った」と、4年ぶりに対面で集い、情報交換と交流の場を持つことの必要と期待を述べた。

記念講演は中村桂子さん（JTL生命誌研究館名誉館長）の「生命誌研究館名譽館長」の「生きものである私が読む書物ー自然と本ー生命誌の視点からー」。戦中に子ども時代を過ごした中村さんは、大好きな本を疎開先に持つていくことができず、「自然という本」を読む体験を通して、「本を生み出すもとは、人間と自然の関係」と、子どもが自然と自然をテーマとした本を読むことの必要性を紹介。生きものである人間は自然の一部であることをとことん考えること、「どんな生き

ものでも細胞を持つていて、その細胞内にDNAがある構造はみんな同じ。生きものはみんなつながっている」と述べ、「自然や本を読み、本質をよく見て自分で考えれば、戦争をしような絶対には思わない」と語った。

分科会は「読書ボランティア」



会場では佐藤真紀子さんの機関誌「子どもと読書」表紙イラストの展示も



「すべての生きものはひとつの細胞から40億年かけて作られてきた生命」と語る中村さん

「読書バリアフリー」「平和」の3つが設けられた。そのひとつ「読書ボランティア」では、1967年開設のくめがわ電書図書館（東京都東村山市）の大塚恵美子さんが話題を提供。団地内の公園に設置された電車車両を利用したユニークな図書館の歩みと子どもたちの様子、また、市民参画会議による市立図書館開館にはした役割と、「館長は司書有資格者であること」「地域図書館活動に対する援助」を明示した市立図書館設置条例によって制度的に支えられていること、それでも、車両の老朽化やコロナによる補助金制度の見直し、スタッフ育成などの課題を抱えていることなどが紹介された。

閉会式ではアピール案が読み上げられ、満場一致で採択された。

## 親子読書地域文庫全国連絡会 第24回 全国交流集会 アピール

私たち親子読書地域文庫全国連絡会は、1970年の発足以来半世紀以上にわたって、「すべての子どもに読書のよろこびを」を掲げ、全国の親子読書会、地域・家庭文庫、読書ボランティアなどとの交流と学び合いを大切に活動してきました。私たちが合言葉としてきた「すべての子どもに読書のよろこびを」は、その根底に平和があります。平和な世界だからこそ読書を楽しむことができ、豊かな読書体験を通じて、平和で平等な世界を思い描くことができるのだと思います。

しかし、予想だになかったコロナ・パンデミック、ロシアによるウクライナ侵攻だけでなく、世界は至るところ宗教対立や民族紛争にさらされています。子どもたちを含む多くの人々が傷つき命を奪われ、争いや核の恐怖に怯える日々を送っています。悲しいことに収束の兆しは一向に見えませんが、

コロナ禍も戦争も、また甚大な被害をもたらす気候危機も、子どもたちの日常や成長に大きく影響し、未来を曇らせるものです。それに加えてさらに、福祉や教育、福島復興までも後回しにして、膨大な予算を軍備に費やそうとする昨今の国の姿勢にも大いに危惧の念を抱きます。

私たちは、命や個人の尊厳が大切にされる社会、生まれや育ちや、その抱える困難さにかかわらず、すべての子どもたちが生きる喜びを実感できる社会、性別や国籍や文化を超えて広くつながりあえる社会を目指したいと思えます。ここに今一度、「すべての子どもに読書のよろこびを」に込められた意味と重さ歴史を確認し、平和な未来と子どもたちの笑顔のために、共に手を携えて粘り強く活動が続けていくことを表明します。

2023年10月7日

親子読書地域文庫全国連絡会 第24回 全国交流集会

■高等学校図書館の現場から

## 専門性の向上と連携を目指して 学校図書館の充実のために

福島県高等学校司書研修会 令和5年度事務局長  
(福島県立磐城校が丘高等学校 主任学校司書)

成田 美紀

### ●会の構成と活動内容

福島県高等学校司書研修会は、学校司書として、相互の専門技術の向上と、教養を高め、協力連携することを目的として昭和39(1964)年に発足しました。令和5(2023)年度は、福島県内の高等学校のうち60校が加盟し、会員数63名で活動しています。主な活動としては、ブックリストと図書館白書の発行、県大会総会・研修会の開催などがあります。

### ●発行資料の紹介

#### ①「おもしろい本な〜い?」

平成7(1995)年度より会員が選んだおすすめ本のブックリストの発行を開始しました。タイトルや編集に変遷はありましたが、現在は「今の高校生が読んでおもしろい本」「選定基準は限定しない」という条件で選んだ本を「人生を考える」「私たちが生きる社会」「生活を豊かに」など10の

ジャンルにわけて紹介しています。読んで「おもしろかった」と感じる本に1冊でも多く出会ってほしいと願いつつ、会員各自がおすすめの本の選定や原稿の作成を行っています。高校生が手に取りやすいように、表紙やカットの絵

は、編集委員の勤務校の図書委員に協力してもらっています。

#### ②「あなたに伝えたい 東日本大震災の本」

平成23(2011)年に起こった東日本大震災から10年以上が経過し、この間に被災の状況や体験復興の過程を記した多くの資料が出版されました。東日本大震災から10年の節目の年には震災関連図書も多く、被災地の学校図書として、関連図書をもとめたブックリストを発行してはどうかという声が上がりました。「これから生きる福島の高校生や先生方に長く読み継いでほしい本」を選び、資料を探しやすいように13

のジャンルにわけて紹介しています。将来の地域の担い手として活

躍が期待される高校生が、震災の記憶を風化させず、震災の経験や教訓を後世に繋いでいくために活用していただけることを願います。

今後は震災当時、幼かったために記憶があまりない、震災後生まれという世代が入学してきます。ブックリストに掲載された本を読み、想像力を働かせ、先人の経験をを通して、災害の多い時代をどう

生きるか考えるきっかけをつかんでもらいたいと思います。

#### ③「福島県高等学校図書館白書」

図書館白書は昭和53(1978)



ブックリスト「おもしろい本な〜い?」最新号と「あなたに伝えたい東日本大震災の本」

年度より発行を開始し、大きくは「読書調査にみる高校生」と「福島県高等学校図書館実態調査」で構成されます。調査項目は時代とともに変化していますが、生徒たちの読書の傾向を把握し、より良い読書環境を整えるために欠かせない資料や人の状況を継続して調査しています。

「読書調査にみる高校生」は「高校生の読書アンケート」をまとめたものですが、月平均の読書冊数、本を読むきっかけ、最近読んだ本、よく読む雑誌やマンガなど、13項目について質問しています。令和4(2022)年度の調査結果を見ると、生徒の不読率は男子が65・3%、女子が57・9%と高く、雑誌離れも進んでいます。また、近年は読む本やマンガのタイトルに男女の差異があまり表れない傾向があります。読みたい本のジャンルや学校図書館に関する質問項目も設けているので、結果を

参考に各校で選書や図書館設備の充実などに努めています。「実態調査」では図書館費、図書の貸出状況、学校司書・司書教諭の配置状況などを調査しています。生徒数も減少し、厳しい予算状況が続いていますが、言語活動や探究活動を支える資料の整備・

提供のためには予算の増額が望まれます。



夏の県大会は、情報交換と交流の貴重な場

### ●研修を刺激と活力に

例年、夏に県大会を開催しています。講演やワークショップ、分科会、事例研究など、輪番制で事務局地区が企画・運営を担当します。

今年度は4年振りに対面形式で県大会を開催することができました。一人職種の学校司書にとって、年に1回でも一堂に会し、専門性のスキルアップと情報交流の機会を持つことは、よりよい仕事をしていくためにも貴重であることをあらためて実感しました。今後とも協力連携をしながら、高校生の読書推進に寄与する活動を継続していきたいと考えます。



## 秋の吉例！本の街の本まつり 第31回 神保町 ブックフェスティバル

信号が変わるたびに、多くの人がすずらん通り入口へ！  
各ワゴンには、熱心に本を手に取り、選ぶ人が集まり、熱気にあふれていました。  
本だけではなく、パッションやマスキングテープなどグッズのカプセルが設置されたワゴンもあり、お目当てのグッズを手に入れようと何度も挑戦する人も……



当事務局がある神田神保町恒例の「神保町ブックフェスティバル」が10月28日(土)・29日(日)に開催されました。メインのすずらん通りいっぱいに出版社のワゴンが並び「本の得々市」は、開始から終了まで愛書家が詰めかけて大にぎわい。東京以外の出版社も多く参加し、地域の出版文化をアピール！また、29日には専修大学を



会場にNPO法人本の学校鳥取県)による「本の学校2023ブルストミーティング」本の価値読書の魅力も開かれました。  
神保町三井ビルディング公開空地の「こどもの本ひろば」には、児童書出版社が多数出店。親子で本を選んだり、おはなし会に参加したりと、笑顔があふれました。  
また、地元学校による演奏やダンス、神保町よしもと漫才劇場メンバーのお笑いライブなども注目されました。  
今年、さくら通りに「一神秋まつりフードコート」が設置され、神保町グルメが勢ぞろい。本とグルメ、心身ともに栄養で満たされるフェスティバルでした。



